

高校生の制服に対する意識
—家庭科教育との関連性—
県立芸文短大 福村愛美

目的 前報では、高校生が制服に対してどのような意識を持っているかを明らかにした。今回は高校1年生と2年生の制服に対する意識の違いや、調査対象者が美術専攻と音楽専攻に分かれているので、専攻による意識の違いを明らかにした。高校生になったばかりの1年生と慣れて来た2年生では、考え方も変化すると思われる。また同じ芸術分野であっても、美術と音楽では全く性格の違う分野なので、この専攻の違いでも考え方の差が表れると思われる。本研究では制服が学校教育の中でも、家庭科教育や被服実習、家庭科男女共修などと、どのような関連性があるかを調査をもとに検討し考察した。

方法 調査は、満15才から満17才までの高校生160名を対象に行った。調査方法は家庭科の授業中に調査票を配布し、その場で質問事項について記入してもらい回収した。有効回収数は152票で、回収率は95%である。調査内容は、制服について、家庭科について、被服実習について、家庭科男女必修についてである。分析方法は、高校1年生、2年生、美術専攻、音楽専攻の生徒に分けて各々単純集計し、制服に対する意識を明らかにした。次に制服についてと、家庭科や被服実習、家庭科男女必修についてとのクロス集計を行いカイ二乗(χ^2)及び \sqrt{Cr} 値をもとに相互の関連性を明らかにする。

結果 高校1年生と2年生、美術専攻と音楽専攻の生徒を比較すると、1年生と美術専攻の制服に対する意識と、また2年生と音楽専攻の意識の傾向が似ている結果となった。つまり高校2年生と音楽専攻の生徒の方が、より制服が気になると考えている。そして制服と家庭科教育や被服実習との関連性については、分析結果から細部において関連性があるといえる。